



高瀬中だより

郡山市立高瀬中学校
2021年 9月3日 (金)
《第18号》文責:校長 草野 仁



学校評価(7月実施)教職員自己評価・生徒アンケート結果(その1)

本校は県・市の教育方針のもと、下記「学校経営の5つの柱と10の重点事項」により教育活動を推進しています。7月に重点事項10項目と小中共同課題1項目について、学校自己評価(生徒・保護者・教職員アンケート)を実施しました。本号では5つの柱1、2の結果についてお知らせいたします。他項目については次号以降に掲載します。

【学校経営の5つの柱と10の重点事項】

1「創造：進んで学び挑戦する生徒の育成」

- (1)「主体的・対話的で深い学び」による活用力の育成
- (2)ICTを活用した「分かる授業」作り

2「自立：自ら考え判断しやり遂げる生徒の育成」

- (1)協力・協働して物事をやり遂げる生徒の育成
- (2)自主的・主体的に取り組む生徒の育成

3「健康：たくましい心と体をもつ生徒の育成」

- (1)いじめや不登校、自殺防止に関する組織的な支援
- (2)生徒の健康・体力の維持向上

4「高瀬小・中コミュニティ・スクール」

- (1)高瀬小・中9年間を通した教育活動の推進
- (2)地域学校協働活動の推進

5「保護者・地域・関係機関との連携」

- (1)保護者との信頼関係の構築
- (2)教育活動に関する不断の情報発信

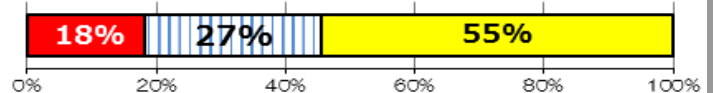
* 小中共同課題

- (1)あいさつがしっかりできる児童生徒の育成

(2)ICTを活用した「分かる授業」作り

① 教職員自己評価結果

ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」により、分かりやすい授業づくりに努めた。



② 生徒アンケート結果

各教科でタブレット(ロイロノート)やデジタル教科書が用いられ、授業がわかりやすく理解できた。



③ 考察(成果と課題)

教師のA+B評価は45%に留まっています。校内での研修を重ね、各教科で積極的に活用したものの、効果が十分に得られていないとの認識によるものと言えます。一方、生徒のA+B評価は95%と高く、「ロイロノートを使った授業が増えて分かりやすくなった」との記述もありました。2学期は更に実践研究を進め、効果的な活用法を追求します。

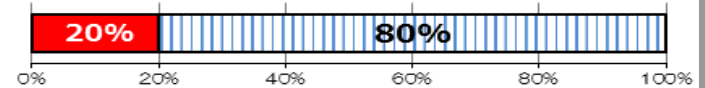
2「自立：自ら考え判断しやり遂げる生徒の育成」

- A: とてもそう思う
- B: まあそう思う
- C: あまりそう思わない
- D: 全くそう思わない

(1)協力・協働して物事をやり遂げる生徒の育成

① 教職員自己評価結果

道徳や特別活動等を通して、相手を尊重し、協力・協働してやり遂げる生徒の育成に努めた。



② 生徒アンケート結果

班やペアでの「学び合い」や「話し合い」により、考えや理解を深めたり広げたりすることができた。



③ 考察(成果と課題)

教師と生徒共にA+B評価が90%を超えています。「昨年度なかった体育祭が行われ、皆で楽しくできたことがよかった」との記述があり、コロナ禍で学校が休校となった昨年度に比べ、生徒が皆と一緒に活動できた喜びを感じた1学期であったと言えます。2学期も修学旅行やのぞみ祭を通して、皆で協働してやり遂げる活動の充実を図ります。

(2)自主的・主体的に取り組む生徒の育成

① 教職員自己評価結果

生徒会や係活動を通して、物事に自主的・主体的に取り組む生徒の育成に努めた。

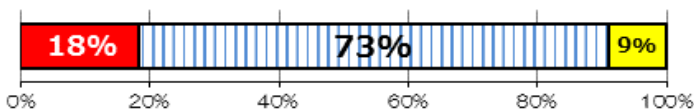
1「創造：進んで学び挑戦する生徒の育成」

- A: とてもそう思う
- B: まあそう思う
- C: あまりそう思わない
- D: 全くそう思わない

(1)「主体的・対話的で深い学び」による活用力の育成

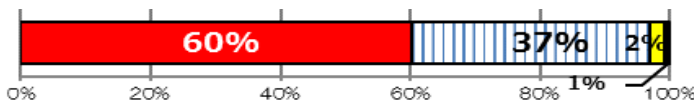
① 教職員自己評価結果

「学び合い」「話し合い」等による主体的・対話的な学習活動を工夫し、活用力の育成に努めた。



② 生徒アンケート結果

班やペアでの「学び合い」や「話し合い」により、考えや理解を深めたり広げたりすることができた。



③ 考察(成果と課題)

教師のA+B評価が91%と高く、コロナ感染防止に努めながら主体的・対話的な学習活動の充実を目指してきた結果と言えます。生徒のA+B評価も97%に達し、「班の話し合いで、自分以外の考えを知り、より深く考えることができた」等の記述も見られました。今後は、ICT(タブレット)を活用した「協働的な学び」の改善・工夫が課題です。

